京都の未来を拓く次世代産業人材活躍プロジェクト

デジタル活用でものづくりはこう変わる！　全７回オンラインセミナー

「3DA モデルの使い方と DTPD への展開」
上流から下流まで全体最適によるものづくりの効率化

設計の３D 化は進んでいるものの、外注されることが多い加工や検査、組立などの後工程はまだ２D 図面が正というケースが多く見受けられます。このことから設計者の意図する情報が正しく効率的に後工程に伝わらず、品質不良や本来不要であるはずの情報の再入力や確認作業などものづくりの上流と下流の双方で大きな負担や非効率が生じています。

本セミナーでは、3D のデジタル情報をものづくり上流から下流までの全プロセスで活用し、効率的なものづくりを実現するために必要な各種規格、幾何公差、計測技術などの知識に加え、プロセスの実装に必要となるシステムやツール、情報管理などについて学びます。

＜対象となる受講者＞
- ３DCAD ／ CAM の活用に課題を持つ担当者及び管理者
- 自社のものづくりプロセスの改革／改善担当者及び管理者
- 3D モデルでの受発注対応を求められている担当者及び管理者
- ものづくりのデジタル化や DX 導入を検討中の管理者及び経営者
- **京都府内に本社及び事業所のある企業・団体・個人等であることが必要です。**

＜講師とテキスト＞
- 講師：（一社）電子情報技術産業協会（JEITA）三次元 CAD 情報標準化専門委員会
- テキスト：書籍「3DA モデルの使い方と DTPD への展開」

※第１回セミナー参加者には受講日までに本セミナー使用テキストを１社につき１部送付致します。

著者　　一般社団法人電子情報技術産業協会 三次元 CAD 情報標準化専門委員会
サイズ　　A5 判　　ページ数 272 頁
ISBN コード　　978-4-526-08104-0
コード　　C3053
発行月　　2021 年 01 月

【講師】JEITA 三次元 CAD 情報標準化専門委員会会員
藤沼 知久 氏　第１回～第４回、第７回
中村 聡 氏　　第６回　他

2007 年より 3D 活用プロセスを検討し、ISO/JIS 化規格との連携化への検討を続けた内容を「3DA モデルの使い方と DTPD への展開」として本年２月に実践書として出版し、ISO ／ JIS 化への国内電子産業業界全体の 3D 活用の啓蒙を図っている。

【開催日時】第１回　７月 21 日（水）　13：00 ～ 15：00　（WEB 講座 90 分 ＋ 質疑応答 30 分）
第２回～第６回　各月第３水曜日 同時刻
第７回　リアル講座＋懇親会を開催予定　（現在調整中です。）
【開催方法】Zoom ミーティング（参加者には事前に URL を登録 e-mail に送付させていただきます。）
【参加費】無料　（定員 50 名）　　【申込期限】７月 12 日（月）※定員になり次第締め切らせて頂きます。
【申込先】（主催）京都試作センター株式会社
〒 600-8813　京都市下京区中堂寺南町 134 番地　京都リサーチパーク　２号館　２階
TEL　075-316-2100 /FAX　075-316-2122　　E-mail: forum@sisaku.com
社名　住所（〒）　所属　氏名　電話番号　e-mail　を上記メールアドレスまでお知らせください。

京都の未来を拓く次世代産業人材活躍プロジェクト

	開催日	セミナーテーマ	内容
第1回	7月21日	3次元設計における基本的な考え方	
		3DAモデルとDTPDの概要、３D正運用の定義、電機精密製品業界の標準的な製品開発プロセス、3Dによるものづくりの国際標準化動向の紹介	
		国際的な動向も踏まえ、ものづくり上流の設計側が今後どの様に３D活用の範囲を拡充していこうと考えているのかを知る。	
第2回	8月18日	３DAモデルによる３次元設計	
		3DAモデルの3次元設計手順（3DAモデルへの設計情報の作りこみ）、板金部品・組立品・樹脂成型部品の各基本形状、詳細形状、公差指示の事例紹介	
		３Dものづくりプロセスのベースとなるモデル情報である「３DAモデル」を知る。	
第3回	9月15日	３DAモデルを利用したDTPDの作成	
		DTPDの定義とスキーマ、板金加工・組立・金型加工・樹脂成型各加工工程が3DAモデルを利用することでどのように変わるかを具体的に説明	
		「DTPD（デジタル製品技術文書情報）」の実装にあたり、ものづくり側（自社）の現状プロセスとのギャップや実装による効果を知る。	
第4回	10月20日	DTPDの作成と運用１（検図、DR、CAE）	
		機械設計と各種プロセス（検図、DR、電気設計、ソフトウエア設計、機械CAE）間の連携作業が3DAモデル利用でどのように変わるかを具体的に説明	
		DTPDの活用により、ものづくり上流と下流側に加え、社内業務プロセスにおけるコミュニケーションや情報連携の効果を知る。	
第5回	11月17日	DTPDの作成と運用２（幾何公差、公差解析）	
		寸法公差と幾何公差の課題と現状の委員会における取り組み状況（“三次元CAD情報標準化セミナー2020”から紹介）	
		実際にDTPDを実装するために必要となる公差の考え方（寸法公差→幾何公差）や受け取り側に必要な準備体制などを知る。	
第6回	12月15日	DTPDの作成と運用３（製造、検査、保守）	
		3Dデータ関連以外の情報（資料）を加えて、機械設計と各業務（金型加工・樹脂設計、検査、保守）の連携プロセスを具体的に説明	
		実際にDTPDを実装すると、自社のものづくり工程がどう変化し、どんなリソース（人（知識）、モノ（設備））が必要となるかを知る。	
第7回 ＋ 懇親会	1月19日	新しいものづくりへの展開（DX）＋懇親会　**※リアル開催を予定しています。**	
		最近の電機精密製品業界の多様性を整理して、その中で3DAモデルとDTPDの連携を説明。デジタルツインによる工場FA実機とｼﾐｭﾚｰｼｮﾝﾓﾃﾞﾙの連携を説明	
		ものづくり上流の設計側を含めたセットメーカーがDXをどう捉え、どの様なものづくりを目指しており、その中で下流工程とどんな連携を必要としているのかを知る。	

【氏名】：
【会社名】：　　【所属】：
【住所】：〒　　【TEL】：
【e-mail】：